

資料－4－①

平成22年度第2回

沖縄総合事務局

開発建設部

事業評価監視委員会

事業評価監視委員会審議資料

再評価事業の説明資料

○一般国道58号読谷道路

沖縄総合事務局開発建設部

事業評価監視委員会審議資料
道路事業の説明資料（再評価）

一般国道58号 読谷道路

平成22年11月25日
沖縄総合事務局 南部国道事務所

目 次

1. 事業概要	2
---------	---

2. 事業の必要性	4
-----------	---

(1)社会状況の変化	4
(2)道路交通状況の変化	7
(3)地域の要望・活動	8

3. 事業の投資効果	9
------------	---

(1)円滑なモビリティの確保	9
(2)個性ある地域の形成	10
(3)暫定供用の効果	11
(4)安全で安心できるくらしの確保	12
(5)地球環境の保全	13
(6)費用便益分析	14

4. 事業の進捗状況と見込み	15
----------------	----

5. 対応方針	16
---------	----

1. 事業概要

- ◆沖縄西海岸道路は、国道58号、331号などの交通混雑緩和と、那覇空港自動車道、那覇空港、那覇港と西海岸地域の各拠点を連結し、地域の活性化、地域振興プロジェクトに寄与する広域幹線道路で、読谷村から糸満市に至る約50kmの地域高規格道路です(図1)。
- ◆また、沖縄西海岸道路は、渋滞の緩和、交通事故抑制、観光支援並びに物流の効率化等を目的に策定されたハシゴ道路計画にも位置づけられています。
- ◆読谷道路は、その沖縄西海岸道路の一部を形成し、読谷村、嘉手納町における国道58号の混雑緩和、地域の産業、観光及び地域振興プロジェクト支援を目的とした道路で読谷村親志～同村古堅に至る延長6.0kmの地域高規格道路です(図1)。

【沖縄西海岸道路】

沖縄西海岸道路は読谷村から糸満市に至る約50kmの道路

⇒恩納海岸地区、南部西海岸地域の産業拠点と那覇市、空港、那覇港等を連絡することにより、観光支援、地域活性化、地域振興プロジェクトの支援に資する



図1 西海岸道路イメージ

1. 事業概要

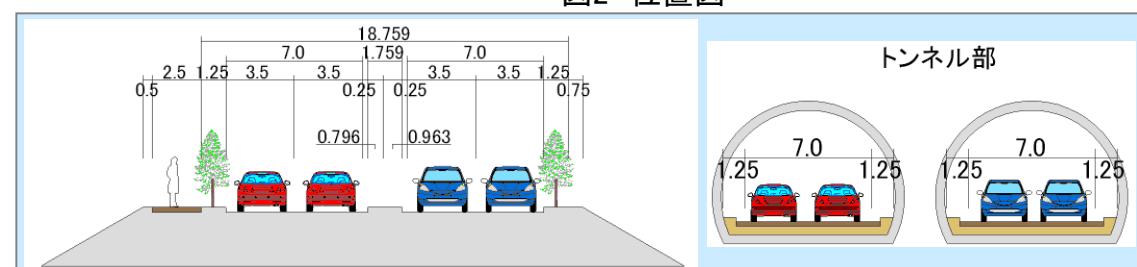
◆読谷道路は、平成13年度に事業化され、平成15年4月に県道6号線～県道16号線間(延長1.3km)が2車線で部分暫定供用された。

事業区間	自)読谷村親志 至)読谷村古堅
延長	6.0km
道路規格	第3種第1級
設計速度	60km/h
車線数	4車線
交通量	15,315台/日 (平成17年実測値) 27,400台/日 (平成42年推計値)
事業費	約 620億円

年次	事業実施項目
平成13年度	読谷道路事業化 (嘉手納B.P.の一部を編入)
平成15年度	大木地区～古堅地区間 (L=1.3km) 暫定供用



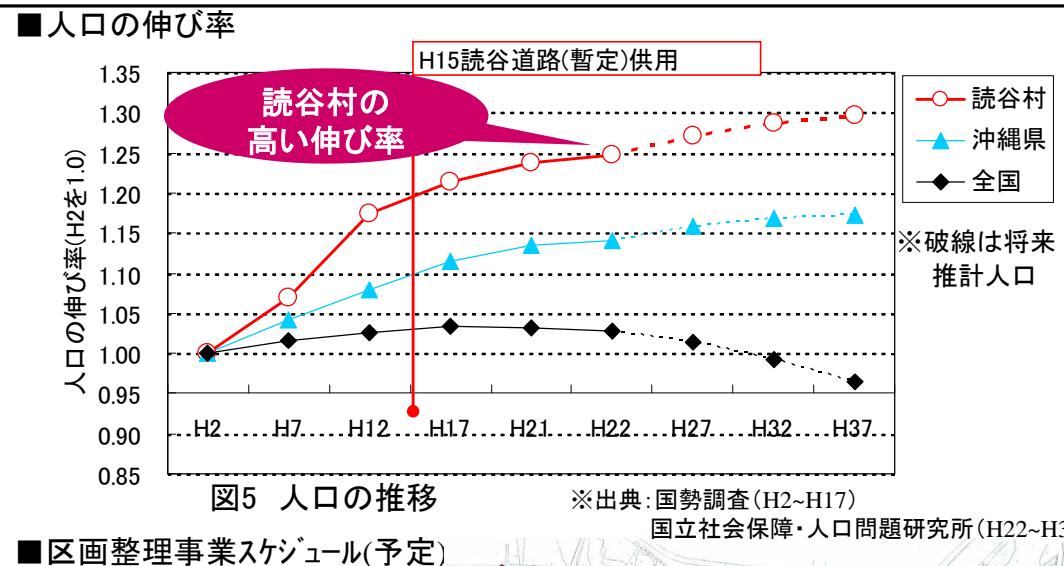
図2 位置図



2. 事業の必要性

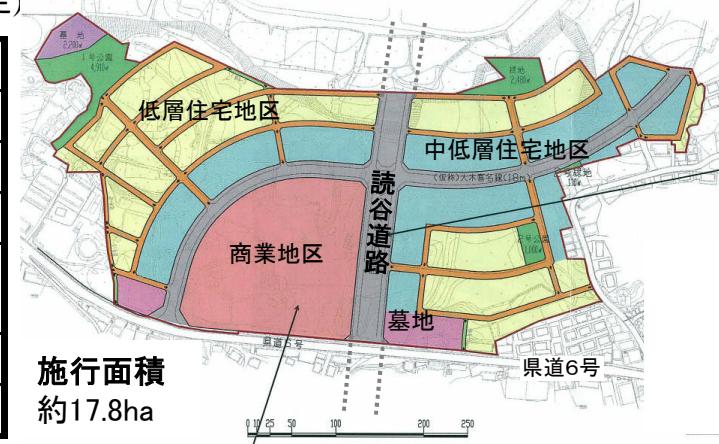
(1) 社会状況の変化[人口等]

- ◆全国的に人口が横ばいとなっているが、県全体、読谷村では増加傾向(図5)。
- ◆読谷道路と県道6号の交差部で大木地区土地区画整理事業(予定)が進められており、住宅、商業施設等の整備による更なる人口、来訪者の増加が見込まれる(図6)。



■区画整理事業スケジュール(予定)

年度	内容
平成22年度	組合設立(予定)
平成24年度	仮換地指定
平成25年度	工事開始
平成26年度	土地利用開始(一部)
平成29年度	工事完了
平成31年度	事業完了



2. 事業の必要性

(1)社会状況の変化[まちづくり]

- ◆ 読谷村は道路網が脆弱であり、特定の路線に交通が集中する構造となっている。読谷村では読谷道路を村内の主要な幹線道路と位置づけ、接続道路となる村道等の整備を進め、ネットワーク強化を図ることとしている(図7)。
- ◆ 返還された読谷補助飛行場跡地を活用したまちづくりを推進中であり、読谷道路を軸とした公共施設移転、農地開発などの基盤整備事業が進んでいる(図8)。

■ 読谷村の道路網整備計画

- ・直行する中央残波線の整備により、十字型の幹線道路網を形成する
- ・県道6号、12号は、環状の幹線道路網とし、読谷道路、中央残波線と併せて、十字環状道路網を形成

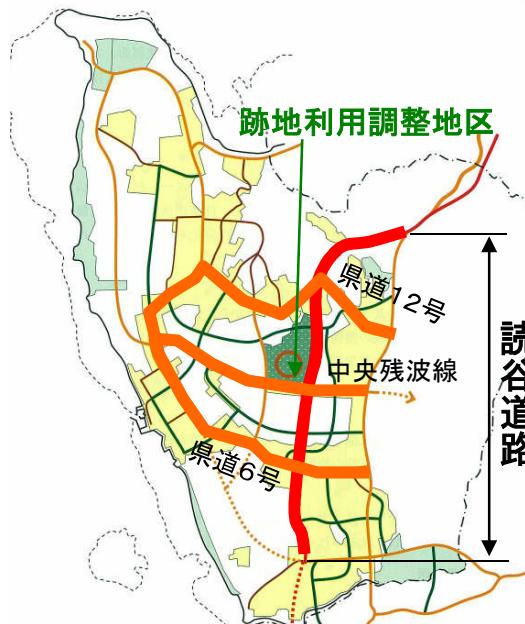


図7 道路網整備計画
※出典: 読谷村第2次都市計画マスターplan

■ 読谷補助飛行場跡地利用実施計画

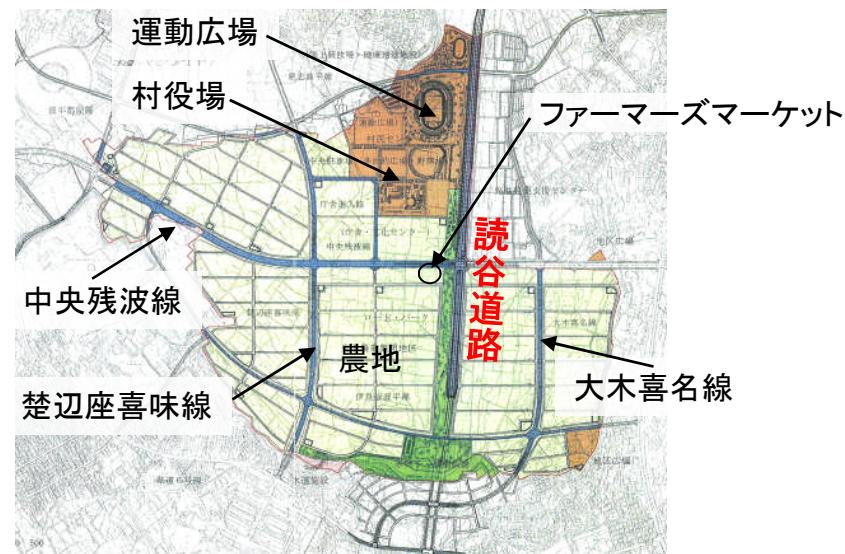


図8 跡地利用計画図

※出典: 読谷村提供資料



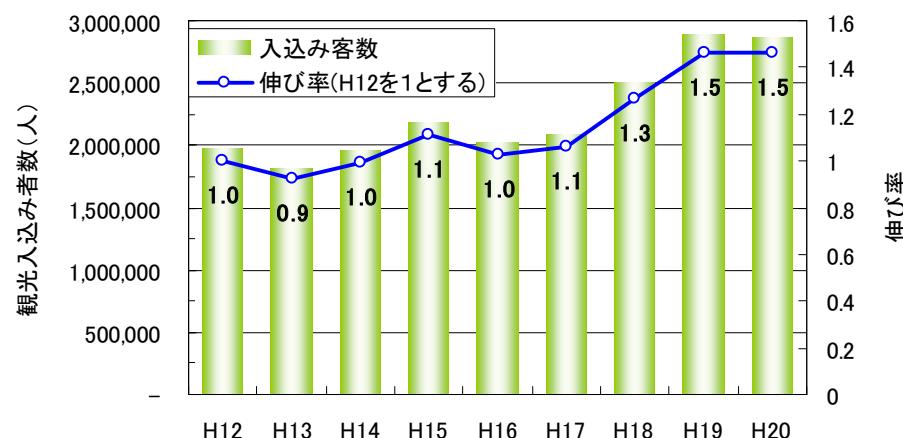
読谷村は観光や農業等の産業も盛んで、レンタカーや観光バス、物流車両も多くなっています。現在の道路ネットワークは脆弱で国道58号と県道に多種多様な交通が集中しているため、読谷道路とあわせた村道の整備を進めています。さらなる産業の振興のためにも、早期の読谷道路を中心とした道路ネットワークが構築が期待されます。

2. 事業の必要性

(1) 社会状況の変化 [観光]

- ◆読谷村の観光入込客数は増加傾向で平成12年から8年間で1.5倍に伸びている(図9)。
 - ◆読谷村の北には県内屈指のリゾート施設を有する恩納村、南には若者に人気の大型商業施設等を有する北谷町などの観光拠点があるため、読谷道路が整備されることで、各地の連携が強化され、一体的な観光振興に寄与。

■ 読谷村の観光客数の推移



※入込み客数は右図の村内22施設の合計
図9 観光客数の推移



残波岬



座喜味城址(世界遺産)

■ 読谷村の観光施設



図10 観光施設の配置

2. 事業の必要性

(2) 道路交通状況の変化

- ◆国道58号現道の交通量は、増加傾向にある(図12)。
- ◆国道58号現道(比謝橋)では交通量5万台/日以上、混雑度も2以上と非常に高く、部分暫定供用の一定の効果は発現しているものの、引き続き沖縄西海岸道路である読谷道路、嘉手納バイパスの一体的な整備が重要(図13)。

■周辺道路の渋滞損失時間

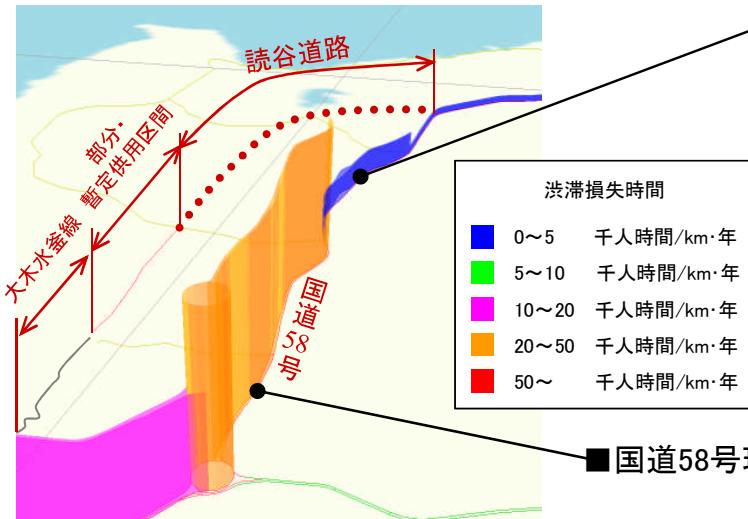


図11 渋滞損失時間

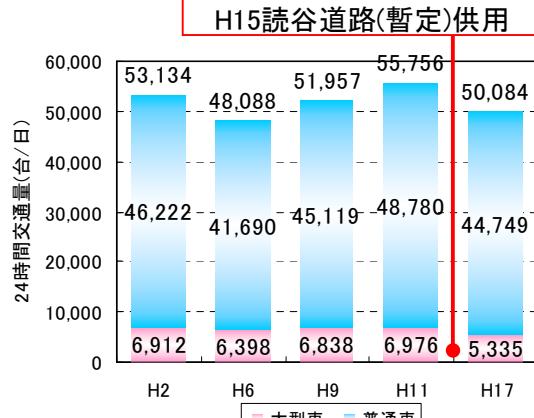
※出典:平成20年度プローブデータ(確定値)

■国道58号現道(未開通区間)の交通推移

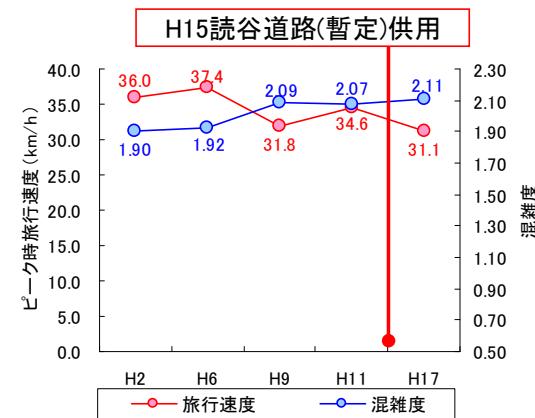


図12 国道58号喜名付近の交通量 ※出典:各年道路交通センサス

■国道58号現道(暫定供用区間)の交通推移



H15読谷道路(暫定)供用



H15読谷道路(暫定)供用

図13 国道58号比謝橋付近の交通量、混雑度、ピーク時旅行速度

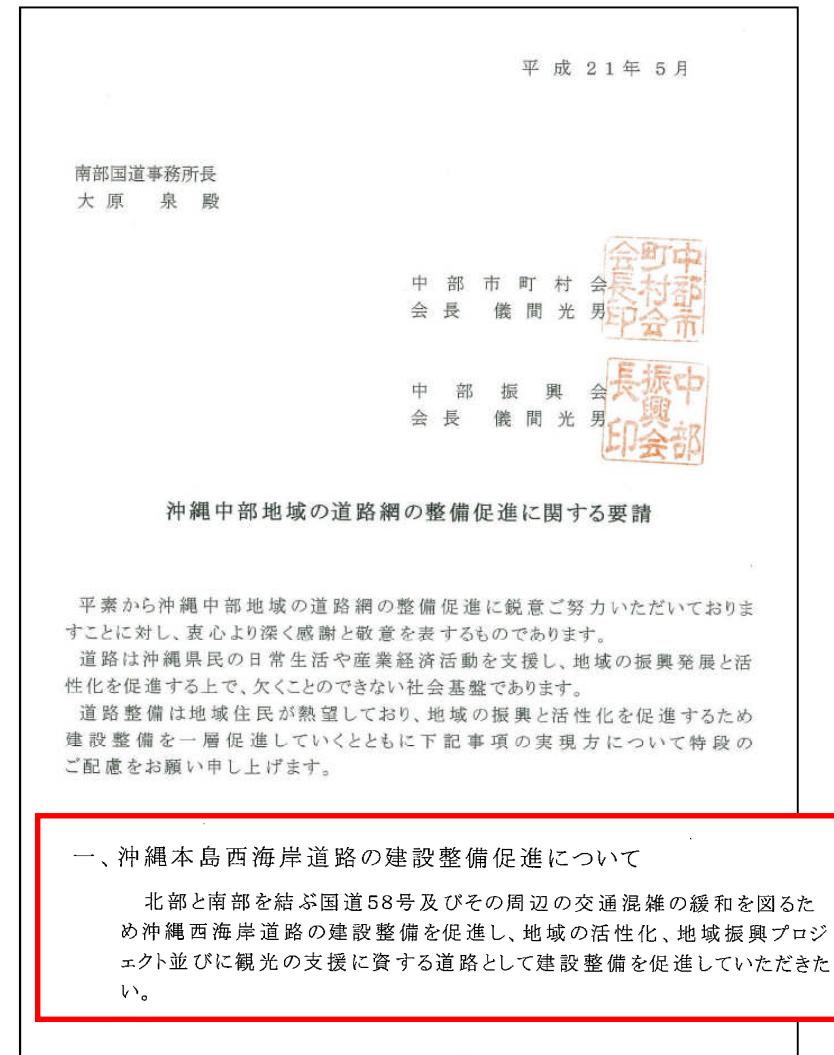
※出典:各年道路交通センサス

2. 事業の必要性

(3) 地域の要望・活動

◆一般国道58号に対して、各種団体より平成12年以降の10年間で、地域振興や、安全向上等の観点から、多くの早期建設に関する要望が出されている。

年度	月	提出者
平成12年度	8月	読谷村
	11月	大木地区土地区画整理事業 推進地主会
	3月	読谷村立古堅南小学校、PTA
平成13年度	10月	読谷村立古堅南小学校、PTA
	1月	読谷村渡具知区
平成14年度	6月	読谷村
平成15年度	5月	沖縄県中部市町村会・沖縄県中部振興会
	12	沖縄県中部市町村会・沖縄県中部振興会
平成18年度	5月	沖縄県中部市町村会・沖縄県中部振興会
平成19年度	5月	沖縄県中部市町村会・沖縄県中部振興会
平成20年度	5月	沖縄県中部市町村会・沖縄県中部振興会
平成21年度	5月	沖縄県中部市町村会・沖縄県中部振興会
平成22年度	5月	沖縄県道路利用者会議
		道路整備促進期成同盟会沖縄県地方連絡協議会
		沖縄国道協会
		沖縄西海岸道路建設促進期成会
		沖縄ハシゴ道路ネットワーク建設促進期成会
		沖縄県中部市町村会
		沖縄県中部振興会



3. 事業の投資効果

(1) 円滑なモビリティの確保

- ◆全線供用に伴うハシゴ道路機能の強化により、並行路線である国道58号に集中する交通が分散し、並行区間の交通量が37%減少(図16)。
- ◆読谷道路の全線供用により、国道58号等の渋滞損失時間が73%削減(図14、15、17)。



図14 国道58号の渋滞損失時間
(整備なし)

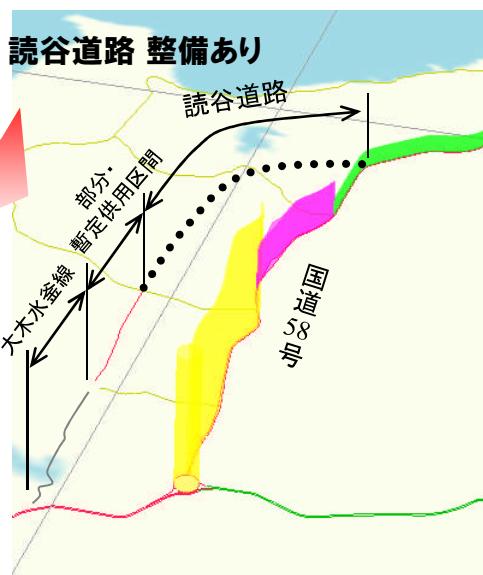


図15 国道58号の渋滞損失時間
(整備あり)

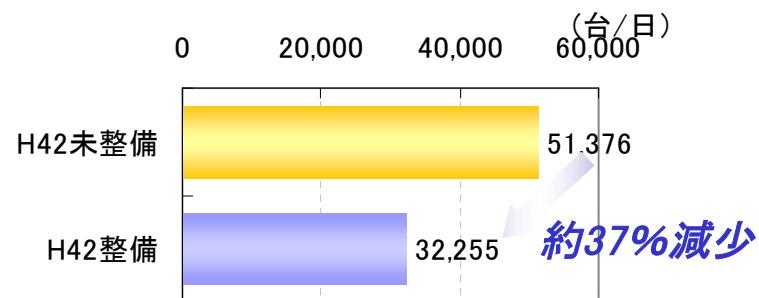


図16 国道58号の交通量の変化

※H42交通量推計値より
センサス区間1013(読谷村字喜名)について、区間の加重平均値を使用

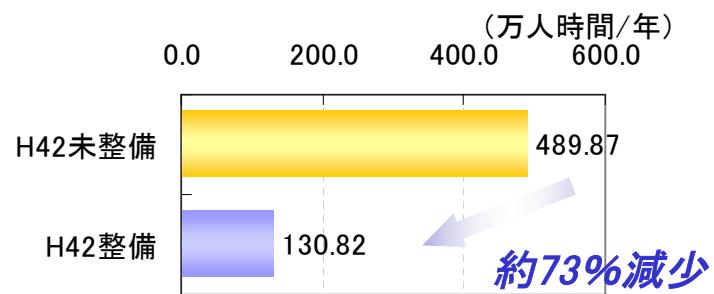


図17 国道58号等の渋滞損失の変化

3. 事業の投資効果

(2) 個性ある地域の形成

- ◆ 読谷道路を整備することで、世界遺産で読谷村の主要観光施設の一つである座喜味城址と、北谷町(アメリカンビレッジ)との所要時間が約8%(2分)短縮する(図18、19)。
- ◆ 読谷道路の沿道には、役場や運動公園などの公共施設や大型の商業施設も整備されており、地元からは、西海岸道路沿線の観光資源等の連携が強化され、周遊行動が増加し、地域活性化につながると期待されている(図19)。

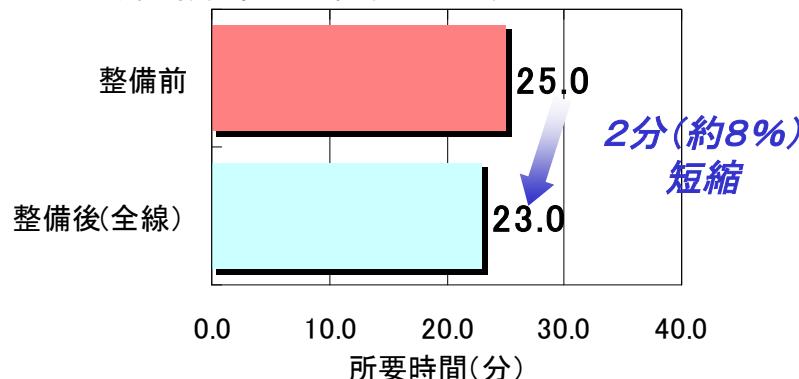
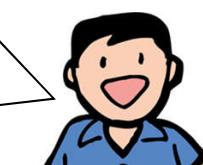


図18 座喜味城址～北谷町(アメリカンビレッジ)の所要時間

※H17センサス混雑時旅行速度より算出。読谷道路は設計速度を使用

「沖縄県観光まちづくり指針」では、西海岸地域を構成する宜野湾市、北谷町、嘉手納町との連携が示されています。また、村内の観光拠点を結ぶことで、「よみたん型ツーリズム」の確立と魅力作りを推進し、本村の観光振興や地域経済活性化につなげたいと考えています。



読谷村商工観光課



3. 事業の投資効果

(3)暫定供用の効果

- ◆読谷道路の暫定供用により、国道58号現道の交通量は減少しているが、現道と読谷道路をあわせた断面交通量は増加しており、細街路からの交通が転換したと考えられる(図20)。
- ◆移動性が向上し、楚辺～水釜区間で約33%(5分)の移動時間短縮が図られた(図21)。

■国道58号、読谷道路の断面交通量の推移

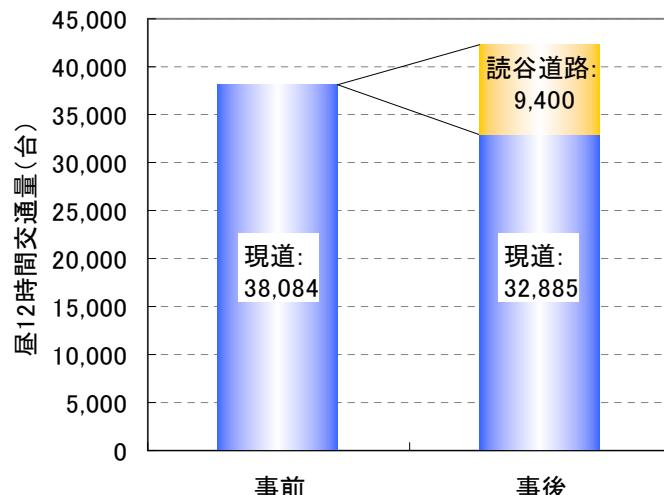


図20 国道58号、読谷道路(暫定)の断面交通量

※出典：事前 平成15年4月11日 南部国道事務所調査結果
(平成15年7月記者発表資料)
事後 平成16年6月22日 南部国道事務所調査結果

■国道58号の旅行速度の向上による所要時間短縮

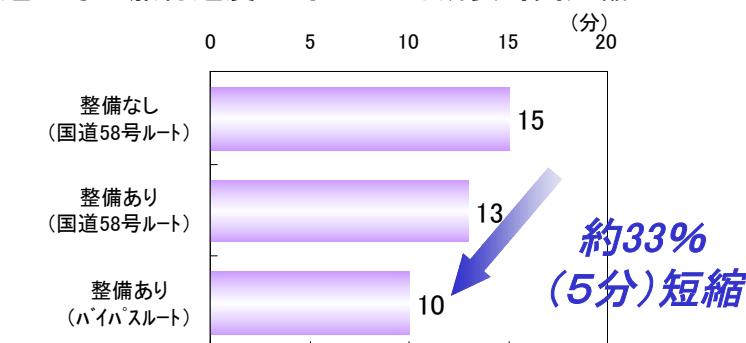
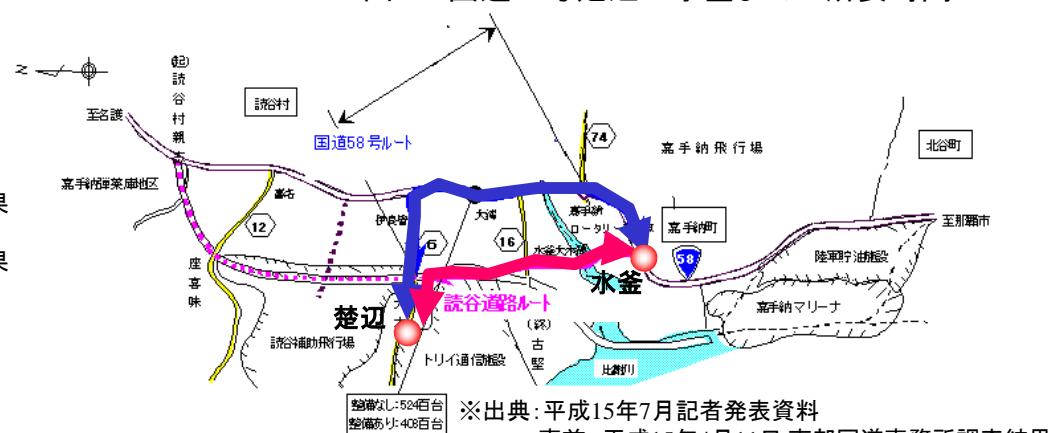


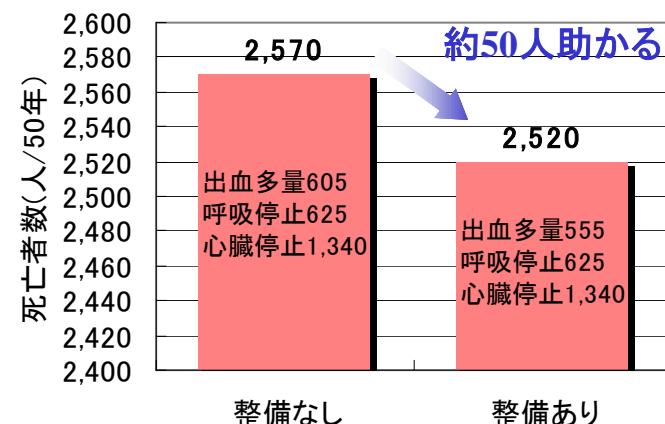
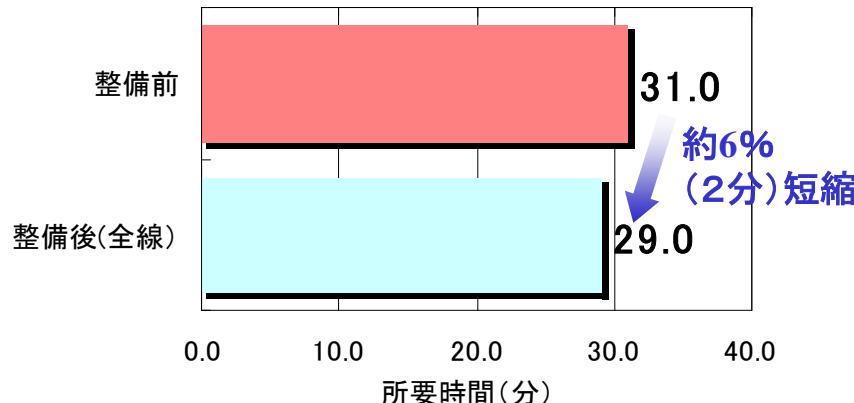
図21 国道58号楚辺～水釜までの所要時間



3. 事業の投資効果

(4) 安全で安心できるくらしの確保

◆読谷道路を整備することで、読谷村役場から第3次医療施設である県立中部病院までの所要時間は、約6%短縮され、救命率の向上に寄与する(図22、23)。



※出典:「救急医療へのアクセス向上効果」便益算定にあたって(留意点)平成20年12月

現在読谷村は道路が少なく、交通集中により混雑が発生するので、読谷道路と周辺道路の整備により交通の分散が図られると速達性が向上すると期待しています。



ニライ消防本部



3. 事業の投資効果 (5) 地球環境の保存及び生活環境の改善・保全

◆読谷道路が整備されることにより、自動車から排出される環境負荷物質CO2が削減される(図25)。

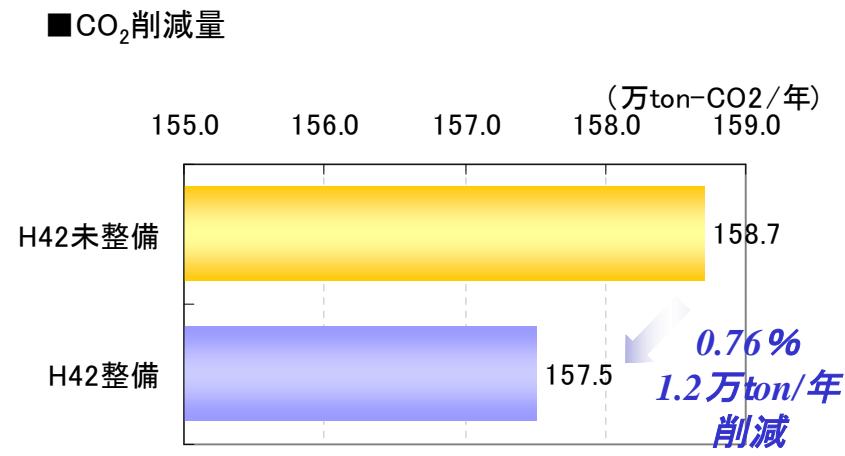


図25 CO₂年間排出量の変化

※整備なし:全線整備なし(推計値)

整備あり:全線4車完成(推計値)



3. 事業の投資効果

(6) 費用便益分析

費用便益分析

項目	残事業	事業全体
費用(C)※1)	379億円※2)	563億円※2)
事業費(億円)	362億円	546億円 (現在の事業費 620億円)
維持管理費(億円)	17億円	17億円
便益額(B)※1)	1,273億円※2)	1,966億円※2)
走行時間短縮便益(億円)	1,100億円	1,711億円
走行経費減少便益(億円)	127億円	191億円
交通事故減少便益(億円)	46億円	64億円
費用便益比(B/C)	3. 4	3. 5

費用便益比の算出条件

$$\text{費用便益比} = \frac{\text{便益【①+②+③】}}{\text{費用【事業費+維持管理費】}}$$

適用マニュアル：「費用便益分析マニュアル」

(平成20年11月：国土交通省道路局 都市・地域整備局)

基準年次：平成22年度

検討年数：供用後50年

事業費：現在価値事業費=単純価値事業費×割戻率×GDPデフレータ

便益：①走行時間短縮便益②走行経費減少便益③交通事故減少便益
・上記金額は、道路整備前後における、

①走行時間の価値②走行経費③交通事故損失額 の差により算出
・なお、各金額は将来OD(H17センサスベースH42OD表)により

推計した交通量を用いて算出

費用及び便益額等については、平成22年度の価値に換算

(現在価値算出のための社会的割引率：4%)

その他地域社会が受ける便益等

項目	効果
円滑なモビリティの確保	◇渋滞損失時間削減量 約73%削減(489.87→130.82百人 時間/km/年)(現道区間)※3) ◇交通量の変化 約37%削減(51,376→32,255台/ 日)※3)
個性ある地域の形成	◇所要時間短縮 約8%(座喜味城址～北谷町アリ カンビレッジ25分→23分)※5)
安全で安心できるくらしの確保	◇所要時間短縮 約6%(読谷村役場～県立中部 病院31分→29分)※5)
地球環境の保全	◇CO ₂ 排出削減量 ・1.2万t-CO ₂ /年(沖縄県)削減※3) ・158.7→157.5万t-CO ₂ /年※4)

※1)費用・効果の金額は、社会的割引率(4%)、GDPデフレータ(H20確報値)を踏まえた供用開始より50年間の総額

※2)便益・費用の合計は表示桁数の関係で一致していない

※3)H42未整備時(without)、H42整備時(with)の数値の差

※4)費用便益対象リンクのうち、交通量推計の結果から当該事業により大きく影響を受ける国道58号、県道6号、県道12号、県道16号のリンクを対象として算出

※5)現況路線はH17センサス混雑時旅行速度、読谷道路・(完成供用後)は設計速度(60km/h)を用いて算出

4. 事業の進捗状況と見込み

◆平成13年度に事業化着手後、平成15年に部分・暫定供用が完了。
(平成22年度末までの事業進捗率は22.6% (予定)、全線供用に向け事業を継続)

■事業の経緯

年次	事業実施項目
平成13年度	読谷道路事業化(嘉手納BPOの一部を編入)
平成15年度	大木地区～古堅地区間(L=1.3km)暫定供用

■事業の進捗率

年次	全体事業費
全体事業費	620億円
平成22年度末進捗	141億円
進捗率	22.6%



図27 読谷道路部分・暫定供用区間



図28 読谷道路未整備区間



図29 位置図

5. 対応方針

1. 事業の必要性

- 国道58号現道の交通量は増加傾向である。⇒交通渋滞の緩和
- 読谷村の人口、観光入込み客数は増加傾向である。⇒観光支援
- 平成18年に読谷補助飛行場が返還されており、その中心を貫通する読谷道路を中心とした基盤整備、土地区画整理事業（予定）が進行中。⇒地域活性化支援

2. 事業の投資効果

- 円滑なモビリティの確保
⇒現道の渋滞損失時間が削減【約489.87万人時間/年→130.82万人時間/年】(未整備→完成4車線)
- 個性ある地域の形成
⇒世界遺産である座喜城址から近郊の観光拠点である北谷町（アメリカンビレッジ）への所要時間が約8%短縮。【25分→23分（-2分）】(未整備→完成4車線)
- 安全で安心できる暮らしの確保
⇒読谷村役場から中部病院までの所要時間が従来より約6%（2分）短縮し、救急搬送の環境改善
- 地球環境の保全
⇒CO2排出量の削減（沖縄県全体の0.76%削減）
- 費用便益（B／C） = 事業全体3.5、残事業3.4

3. 事業の進捗と見込み

- 平成15年4月に大木～古堅地区（L=1.3km）2車線で暫定供用
- 部分暫定開通の一定の効果も発揮されている。今後は早期事業効果発現を図るとともに、村による読谷補助飛行場跡地を活用したまちづくりを支援するために、当面は、全線2車線暫定供用に向けて、鋭意事業の進捗を図る。

○対応方針（原案）：

事業継続